

平成29年度「とちぎっ子学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立豊郷北小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、平成29年度「とちぎっ子学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

本県児童生徒の学力や学習の状況等を把握・分析し、児童生徒一人一人の課題を明確にするとともに、各学校が組織的に学習指導における検証改善サイクルの構築・運用に取り組むことにより、本県児童生徒の学力向上に資する。

2 調査期日

平成29年4月18日(火)

3 調査対象

小学校 第4学年、第5学年（国語、算数、理科、質問紙）

中学校 第2学年（国語、社会、数学、理科、英語、質問紙）

4 本校の実施状況

第4学年 国語 40人 算数 40人 理科 40人

第5学年 国語 32人 算数 32人 理科 32人

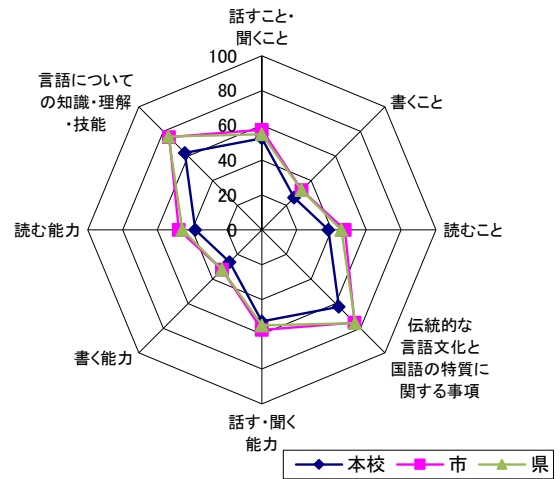
5 留意事項

- (1) 本調査は、対象となる学年、実施教科が限られていることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、
「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立豊郷北小学校 第4学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

| 分類 | 区分 | 本年度 | | |
|-----|----------------------|------|------|------|
| | | 本校 | 市 | 県 |
| 領域等 | 話すこと・聞くこと | 52.6 | 57.5 | 54.9 |
| | 書くこと | 26.3 | 32.3 | 32.3 |
| | 読むこと | 38.2 | 47.7 | 45.7 |
| | 伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項 | 62.6 | 75.3 | 75.8 |
| 観点 | 話す・聞く能力 | 52.6 | 57.5 | 54.9 |
| | 書く能力 | 26.3 | 32.3 | 32.3 |
| | 読む能力 | 38.2 | 47.7 | 45.7 |
| | 言語についての知識・理解・技能 | 62.6 | 75.3 | 75.8 |



★指導の工夫と改善

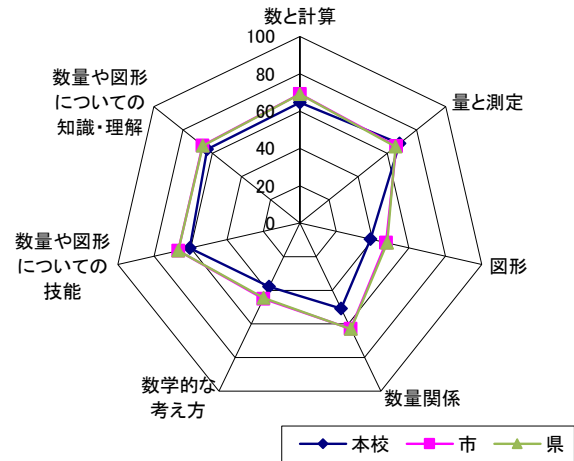
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

| 分類・区分 | 本年度の状況 | 今後の指導の重点 |
|----------------------|--|--|
| 話すこと・聞くこと | <p>平均正答率は、他の領域に比べて県の平均に近い。</p> <p>○「話し合いにおける司会者の役割」や「理由を挙げて筋道を立てて話す」ことは、よく理解している。</p> <p>●「自分の意見を述べる」の記述式解答が県の平均より低くなっている。</p> | <p>・授業において、解答を答えるだけでなく常に「～だから」と理由を挙げて発表させたり、ノートに記述したりするよう意識付けを行う。また、友達の意見も根拠を意識して最後までしっかり聞き取ることができるようにする。</p> |
| 書くこと | <p>他の領域の問題に比べて記述式で答えるものが多いせいが無解答率が高くなっている。</p> <p>○記述式解答に答えられている児童の正答率が高い。</p> <p>●テストの後半に記述式問題が多かったため、解答をあきらめて無解答の児童が多い。</p> | <p>・記述式問題に抵抗感をもちたせないためにも、授業におけるノート指導や日記指導に力を入れていく。</p> <p>・学習への集中力の継続を高めるために、毎日の家庭学習へ取り組む時間を学年目標50分以上とした。目標達成のために、家庭学習チェック票を活用し保護者の理解・協力を得て、家庭学習の充実を図っていく。</p> |
| 読むこと | <p>平均正答率は県平均より低い。</p> <p>○登場人物の心情や説明文の構成を捉えることは、とてもよくできている。</p> <p>●選択式の問題の正答率は高いが、記述式の問題になると平均より低くなり、無解答率も高くなる。</p> | <p>・授業におけるノートの取り方を工夫していく。自分の考えや文の要点を要約し、友達の意見と比較検討することで、記述への苦手意識や抵抗感をなくしていく。</p> <p>・図書室の活用を多くし、児童の読書量を増やす。</p> |
| 伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項 | <p>県の平均に比べて低い。</p> <p>○漢字の読みはよくできている児童が多い。</p> <p>●漢字の書きが苦手で、県の平均の半分程度しかできていない。</p> | <p>・月1回の漢字100題テストや毎日の漢字ドリル小テストを行うことにより、漢字練習に取り組む具体的目標を多くもたせることにより積極的に漢字に取り組む児童を増やす。また、努力の成果から漢字の学習に自信をもたせる。</p> |
| | | |

宇都宮市立豊郷北小学校 第4学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

| 分類 | 区分 | 本年度 | | |
|-----|-----------------|------|------|------|
| | | 本校 | 市 | 県 |
| 領域等 | 数と計算 | 64.6 | 69.2 | 69.1 |
| | 量と測定 | 68.4 | 66.1 | 65.6 |
| | 図形 | 38.8 | 47.4 | 48.0 |
| | 数量関係 | 50.9 | 62.9 | 63.1 |
| 観点 | 数学的な考え方 | 37.9 | 45.1 | 44.6 |
| | 数量や図形についての技能 | 60.5 | 66.8 | 66.8 |
| | 数量や図形についての知識・理解 | 63.5 | 66.6 | 66.5 |



★指導の工夫と改善

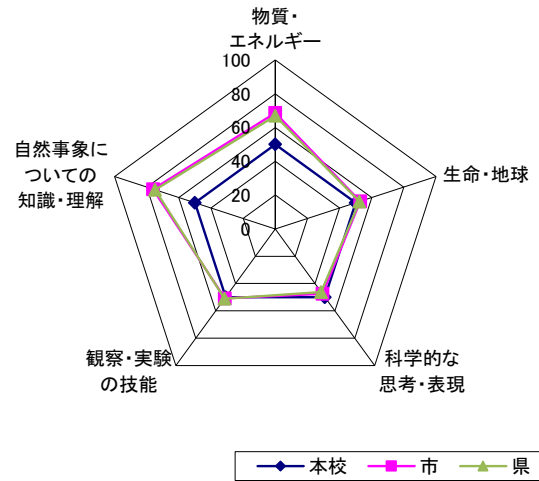
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

| 分類・区分 | 本年度の状況 | 今後の指導の重点 |
|-------|--|--|
| 数と計算 | <p>平均正答率は、県平均より低い。</p> <p>○加法・減法は、県平均を上回るくらいによく理解されている。</p> <p>●3位数×2位数などの乗法やあまりのあるわり算のたしかめ算などの除法のやり方が不確かな児童が多い。</p> | <ul style="list-style-type: none"> 算数プリント集などを通して、基本的な四則演算の練習量を増やし、計算力を高める。 けた数の多い計算において、乱雑に数字を書きミスをする児童が多いので、マス目ノートを用いて位をそろえることを意識させる。 わり算のたしかめ算については、「わり算の筆算①②」の単元で多く触れ、復習を行う。 |
| 量と測定 | <p>平均正答率は、県平均より高い。</p> <p>○「時刻と時間」「長さ・重さ」ともよく理解できている児童が多い。特に「重さ」は、体感的に理解できている児童が多い。</p> | <ul style="list-style-type: none"> 分数や小数においても「重さや長さ」を扱うので、必ず体感的な学習を取り入れ、児童の「量と測定」に関する感覚を養う。 |
| 図形 | <p>平均正答率は、県平均より低い。</p> <p>●正三角形の作図や円の特性についての理解が不十分な児童が多く、その特性を用いて図形を説明する問題の正答率が低い。</p> | <ul style="list-style-type: none"> 「角」や「垂直・平行」、「立体」の授業において、三角形の作図の仕方や円の特性について繰り返し復習を取り入れていく。一人一人のコンパスや定規の使い方について確認を行っていく。 |
| 数量関係 | <p>平均正答率は、県平均より低い。</p> <p>●棒グラフのメモリの取り方やグラフの読み取りが理解不十分な児童が多く、県平均に比べて低い。</p> <p>●記述式の問題に対する無解答率が高い。</p> | <ul style="list-style-type: none"> 「折れ線グラフ」の学習において、グラフの目盛りの取り方やグラフの読み取りの復習を行う。 授業において、自分の考えを記述するノートの取り方を身に付けさせる。 算数プリント集などの継続的な取組から、集中力を養う。 |
| | | |

宇都宮市立豊郷北小学校 第4学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

| 分類 | 区分 | 本年度 | | |
|-----|----------------|------|------|------|
| | | 本校 | 市 | 県 |
| 領域等 | 物質・エネルギー | 50.0 | 68.6 | 66.9 |
| | 生命・地球 | 50.0 | 52.8 | 52.4 |
| 観点 | 科学的な思考・表現 | 50.0 | 47.4 | 46.2 |
| | 観察・実験の技能 | 50.0 | 50.8 | 51.1 |
| | 自然事象についての知識・理解 | 50.0 | 76.1 | 74.8 |



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

| 分類・区分 | 本年度の状況 | 今後の指導の改善 |
|----------|---|---|
| 物質・エネルギー | <p>平均正答率は、県平均より低い。</p> <p>○「風やゴムの働き」や「電気の通り道」についての設問では、個別の実験セットをもって実験を行い、結果がすぐに考察に結びつく学習単位については、県平均と同じくらいに理解できている。</p> <p>●「ものの重さ」や「磁石の性質」など、結果から実際に見えないものを考察していく単位については、県平均より低い。</p> | <p>・体験的学習により理解を深めている児童が多いので、学習課題を明確にもって実験に取り組み、結果から考察する学習の流れを徹底する。また、グループ内での意見交換を活発にし、より理解が深まるようなグループ学習のあり方を学ばせる。</p> |
| 生命・地球 | <p>平均正答率は、県平均と同じくらいにできている。</p> <p>○「昆虫と植物」「身近な自然の観察」「太陽と地面の様子」とも基礎問題の選択式の正答率が高い。</p> <p>●活用問題の記述式解答になると無解答率が高くなる。</p> | <p>・日常生活で感じた科学的な疑問を解決していこうとする態度を育てていく。そのために、課題解決に向けた話し合い活動の充実や参考図書の紹介、自主学習に理科学的な内容を取り入れることを推奨していく。</p> |
| | | |

宇都宮市立豊郷北学校 第4学年 児童質問紙調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○豊かな基礎体験や基本的な生活習慣については、肯定的回答の割合が高い傾向にある。

●「学びに向かう力」では、自己有能感・達成感が低い児童が多く、「自ら学ぶ力」では、学習スキルが十分に身に付いていない児童が多い。

習熟度別指導などを取り入れながら分かる内容を増やし、学力の定着につなげるように指導していきたい。

●「学びを律する力」では、学習継続力が低く学習のけじめが付かない児童が多い。

「学び」に積極的に向かう力を高め、自信をもって取り組める児童を増やすために、4月より漢字100題テストや算数プリント集、家庭学習チェック票など、児童の努力が児童自身や保護者にも分かりやすく目に見えて分かる形の課題を多く取り入れてきた。家庭の協力の下、現在の取組の継続を図っていききたい。

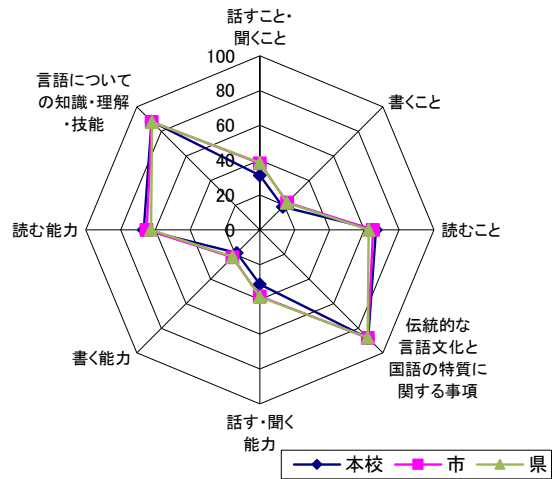
●「学級力」では、すべての観点において県平均を下回っている。

学級のルールを確立し厳守させることにより、多くの児童が安心して自らの力や考えを発揮できる環境づくりをしていきたい。また、多く誉めたり称賛できる場を作り、児童の達成感や自信を高めていけるようにしたい。

宇都宮市立豊郷北小学校 第5学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

| 分類 | 区分 | 本年度 | | |
|-----|----------------------|------|------|------|
| | | 本校 | 市 | 県 |
| 領域等 | 話すこと・聞くこと | 31.3 | 38.3 | 38.5 |
| | 書くこと | 18.8 | 22.3 | 21.9 |
| | 読むこと | 66.7 | 65.0 | 62.5 |
| | 伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項 | 88.1 | 87.8 | 87.5 |
| 観点 | 話す・聞く能力 | 31.3 | 38.3 | 38.5 |
| | 書く能力 | 18.8 | 22.3 | 21.9 |
| | 読む能力 | 66.7 | 65.0 | 62.5 |
| | 言語についての知識・理解・技能 | 88.1 | 87.8 | 87.5 |



★指導の工夫と改善

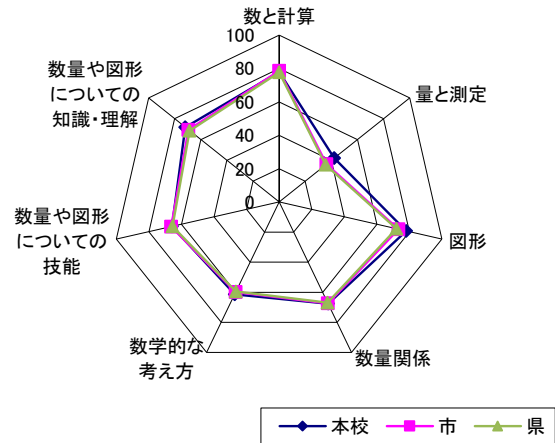
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

| 分類・区分 | 本年度の状況 | 今後の指導の重点 |
|----------------------|--|--|
| 話すこと・聞くこと | <p>平均正答率は、県平均より低い。</p> <p>●話し合いにおいて、提案者の役割を理解し、どんなことを話しているのかをつかむことができたり、話し合いの進行の流れをつかみ、司会者の発言を考えたりすることができたのは、約半数であった。</p> | <p>・学習した内容を他教科等とも関連させていく。また、学級活動において、司会者や提案者の立場を明確にした話し合いを行う。その中で、話し合いの流れや意見の根拠などを考える時間を設ける。</p> |
| 書くこと | <p>平均正答率は、県平均より低い。</p> <p>●書く意欲は見られるものの、キーワードが抜けていたり、論点がずれていたたりする解答が多い。</p> | <p>・スピーチや作文など文章を書く機会を積極的に設定する。接続語の使い方や表現技法などにも気を付けて書けるようにする。</p> <p>・記述式の練習問題を解く時間を設け、キーワードの見つけ方や文章の書き方のコツを習得する。</p> |
| 読むこと | <p>平均正答率は、県平均と同等である。</p> <p>○物語文において叙述を基に、登場人物の気持ちを想像して読む問題の正答率は、県の平均を上回っている。</p> <p>●要約など文章全体の内容を理解していないと答えられない問題の正答率が低い。</p> | <p>・物語をじっくりと読む時間を確保することで、登場人物の心情の変化や情景の変化を読み取る力を高める。</p> <p>・宿題などで説明文の問題を解く時間を設け、文章の大意をつかみ、段落の関係を理解したり要約したりできるようにする。</p> |
| 伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項 | <p>平均正答率は、県平均とほぼ同等である。</p> <p>○漢字の書き、接続語、漢字辞典の使い方などの正答率が高い。</p> <p>●慣用句についての理解が十分ではない。</p> | <p>・授業や宿題において語句指導を継続的にしていく。</p> <p>・朝の学習の時間に4年生までの漢字や、5年生になってこれまでに習った漢字の練習の時間を設定し、繰り返し漢字の練習に取り組み、理解の定着を図る。</p> |
| | | |

宇都宮市立豊郷北小学校 第5学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

| 分類 | 区分 | 本年度 | | |
|-----|-----------------|------|------|------|
| | | 本校 | 市 | 県 |
| 領域等 | 数と計算 | 77.9 | 78.6 | 77.7 |
| | 量と測定 | 42.2 | 36.3 | 35.7 |
| | 図形 | 78.1 | 73.3 | 72.1 |
| | 数量関係 | 67.6 | 67.4 | 66.9 |
| 観点 | 数学的な考え方 | 61.3 | 59.9 | 59.4 |
| | 数量や図形についての技能 | 65.8 | 66.3 | 65.5 |
| | 数量や図形についての知識・理解 | 71.9 | 69.4 | 68.5 |



★指導の工夫と改善

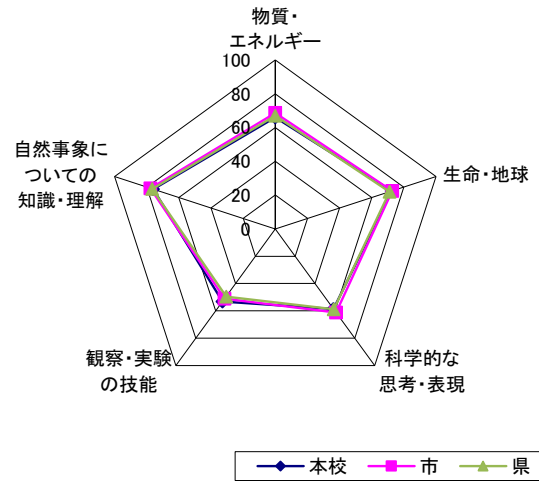
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

| 分類・区分 | 本年度の状況 | 今後の指導の重点 |
|-------|--|--|
| 数と計算 | 平均正答率は、県平均と同等である。 ○割り算の問題の正答率が高い。 ●分数の計算の正答率が低い。ケアレスミスも多い。 | ・計算ドリルやプリントなどを活用して計算練習の場を日常に設け、計算能力をさらに向上させるように工夫していく。特に分数・小数の復習問題を重点的に取り入れる。 |
| 量と測定 | 平均正答率は、県平均より高い。 ○がい数の表し方の問題や計算のきまりに関する問題の正答率が高い。 ●小数や分数の量感を考える力が不十分である。 | ・家庭科などの他教科において、具体的活動による測定の場面を設け、正しい量感をもつことや正確に測定する力を定着させていく。 |
| 図形 | 平均正答率は、県平均より高い。 ○図形についてよく理解していて、どの問題も県の平均正答率以上である。 ●記述式の問題で、書くことができているものの、内容が不十分な解答が多い。 | ・コンパスや分度器を使って作図の練習をする機会を多く取り入れる。 ・方眼紙を用いて立体を作成するなど具体物を使って視覚的に理解できるようにする。 ・記述式問題を解く時間を設け、模範解答を示して解説を行う。 |
| 数量関係 | 平均正答率は、県平均とほぼ同等である。 ○表や折れ線グラフを正しく読み取ることはできている。 ●2つの折れ線グラフについて、発言が正しくないわけを説明する設問の平均正答率が県平均より低い。 | ・社会や理科などの他教科において、積極的に表やグラフを扱うことで興味を深めるとともに、表やグラフを正しく読み取り説明する場面を増やすことで定着を図る。 |
| | | |

宇都宮市立豊郷北小学校 第5学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

| 分類 | 区分 | 本年度 | | |
|-----|----------------|------|------|------|
| | | 本校 | 市 | 県 |
| 領域等 | 物質・エネルギー | 66.0 | 68.6 | 67.0 |
| | 生命・地球 | 72.4 | 72.7 | 71.1 |
| 観点 | 科学的な思考・表現 | 58.6 | 61.2 | 58.8 |
| | 観察・実験の技能 | 53.1 | 51.0 | 49.5 |
| | 自然事象についての知識・理解 | 76.0 | 77.7 | 76.6 |



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

| 分類・区分 | 本年度の状況 | 今後の指導の重点 |
|----------|---|--|
| 物質・エネルギー | <p>平均正答率は、県平均とほぼ同等であった。</p> <p>○金属が温められたときの体積の変化や、水が氷になったときの体積の変化などについては、平均より高くよく理解できている。</p> <p>●「ものあたままり方」の設問では、温められた水が上方に移動することの理解や、金属の棒の温まり方を文章で説明する設問の正答率が低い。</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・空気や水、金属などの性質の変化について、自身の生活経験の中から想起させたり、実際に観察したりする機会を増やすことで理解を深めていく。 ・実験や観察を進める際に、予想、実験・観察、結果のまとめ、といった流れを繰り返すことで、学習の流れを定着していけるようにする。 ・実験や観察した結果を考察する際に、自分自身の言葉でノートにまとめたり、友達と話し合いをしたりする活動を重視し、思考力や表現力を高めていけるようにする。 |
| 生命・地球 | <p>平均正答率は、県の平均をやや上回っていた。</p> <p>○「天気の様子」の問題では、グラフを基に地面の様子と気温の変化について考察する問題で、正答率が高かった。また、方位磁針の適切な操作方法についても、市や県の平均よりも正答率が高く、比較的よく理解ができていた。</p> <p>●「ヒトの体のつくりと運動」については、平均正答率が県や市の平均をやや下回っている。特に、うでのつくりの図や説明を基に、関節のはたらきについて答える問題では理解が不十分である。</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・実際に方位磁針を操作して方位を確かめたり、情報メディア機器を活用して天気の変化を視覚的に理解させたりするなど、実験や観察とともに多様な体験も重視した学習を展開するようになる。 ・人体模型を操作して、うでのつくりと動き方を確認させるとともに、実験の結果からどのようなことが分かるのかを自分のことばでまとめ、表現していくことができるようになる。そのような学習を繰り返していくことで、生命・科学に関する苦手意識を克服していきたい。 |
| | | |

宇都宮市立豊郷北小学校 第5学年 児童質問紙調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「学校の宿題は、自分のためになっている」「学習して身に付けたことは、将来の仕事や生活の中で役に立つと思う」「学校の宿題は、やりたくなる内容だ」「学習に対して、自分から進んで取り組んでいる」「難しい問題にであつと、よりやる気が出る」の肯定的回答の割合は、県平均より高い。意欲的に取り組むことができるような課題設定を今後も継続していく必要がある。

○「自分は勉強がよくできる方だと思う」「自分にはよいところがあると思う」「自分はクラスの人役に立っていると思う」の問いに対する肯定的回答の割合は、県平均より高い。自己肯定感の高さを学習意欲へとつなげていきたい。

●「家の人と将来のことについて話すことがある」「家の人、あなたがほめてもらいたいことをほめてくれる」「家の人と学習について話をしている。」「毎日、同じくらいの時刻に寝ている」「家でのおきまりや約束を守っている」という設問に対する肯定的回答の割合は、県平均より低い。家庭での過ごし方について家庭科や学活で振り返るとともに、保護者に対しても働き掛けようにしていきたい。

○●「クラスは発言しやすい雰囲気である」「グループなどの話し合いに自分から進んで参加している」「クラスの友達との間で、話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている」という設問に対しては、県平均より高いが、「友達の前で自分の考えや意見を発表することは得意である」は、県平均より低い。聞く姿勢の指導を継続的に行うとともに、聞いたことを生かして積極的に発言していけるように指導していきたい。

●「家で、学校の授業の予習をしている」「テストで間違えた問題について勉強している」「勉強するときに大体同じ時刻に取り組むようにしている」という設問に対する肯定的回答の割合は、どれも県平均より低い。テストの復習を自主学習の課題として取り組み、苦手を克服するための実践力につなげていきたい。

○「授業で扱うノートには、学習の目標とまとめを書いている」という設問に対する肯定的回答の割合は、県平均より高い。今後もノートや学習カードなどを活用して学習の振り返りを書く時間を設定し、学習内容の理解を図りたい。

○「算数の授業で問題を解くときには、言葉や数、式だけでなく、図、表、グラフなどを使って考えるようにしている」の設問に対する肯定的回答の割合は、県平均より高い。今後も多様な考え方を使って問題や課題を解くことができるように指導していきたい。

宇都宮市立豊郷北小学校（第4・5学年共通） 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

| 重点的な取組 | 取組の具体的な内容 | 取組に関わる調査結果 |
|------------------------|---|---|
| 学習における基礎的・基本的な知識・技能の定着 | 朝の学習の時間を活用して基礎基本の定着を図る。また、かがやきルームや、T T、習熟度別及び少人数での指導を通して、個に応じた学習支援を行う。 | クラスや教科によって、A層とD層の児童の差が大きい。 |
| 読む・考える・書く力をつけるための学び合い | 授業の振り返りの時間を確保し、自分の考えを文に表す習慣を身に付けさせることで書くことに自信をもたせる。A層の児童の説明をまねたり、自分が書いた内容を見直したりする時間を確保する。 | 記述式問題の無回答率が全体的に高い。また、問題(図や表や式など)を読み取る力が十分でない。 |
| 家庭学習への取組 | 児童の実態や教科によって、予習や復習をバランスよく取り入れる。自主学習への取り組み方を指導しながら習慣化を図ることで、授業にも意欲的に参加できるようにする。 | 学習に意欲がもてない児童や与えられた宿題しか取り組めない児童が見られ、計画的に学習できる児童が少ない。 |

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

| 調査結果等に見られた課題 | 重点的な取組 | 取組の具体的な内容 |
|--------------|--------|-----------|
| | | |